

PLL MPX方式  
AM/FMステレオチューナー

# TX-6600II

¥27,800

## パイオニア開発の専用IC採用のIF部。同調特性を向上させた音質重視の設計。 受信性能を高め、ひずみを抑えた充実設計のステレオチューナー。



ステレオチューナーというのと、とかく受信性能ばかりを重視しがちですが、TX-6600IIはすぐれた受信性能と同時に、美しい音質による音楽再生を狙いとした、音質重視の設計が大きな魅力です。またTX-6600IIは、高精度をしのばせる精緻で洗練されたデザインも見のかせない魅力になっています。メタリックベースのダイヤルスケール面は、リフレクトライティング方式による柔らかく均一な照明。高級感に満ちた美しさです。

高感度と高い妨害排除能力を持つ、3連バリコンとFETによるFMフロントエンド。

FM放送の電波は、複雑な空間を伝わるのですから、場所によっては極端に電波の弱いFM難聴地

域と呼ばれる所も生まれるわけです。こうした地域での受信は、何といても高感度であることが最大のきめ手になります。また、都市部などでは、放送の電波は十分に強くても周囲に強力な妨害波が多く、これが音質に悪影響を与えます。すぐれたフロントエンドはこうした様々な地域で、狙った電波だけを確実にキャッチする、高感度と高い妨害排除能力を持ってはなりません。TX-6600IIのフロントエンドは、雑音指数の低いFETと周波数直線型の3連バリコンで構成した、高周波1段増幅つきの回路です。このフロントエンドによって実用感度は1.9 $\mu$ V(IHFモノ)の高さ、妨害波の排除能力も高いものとなっています。

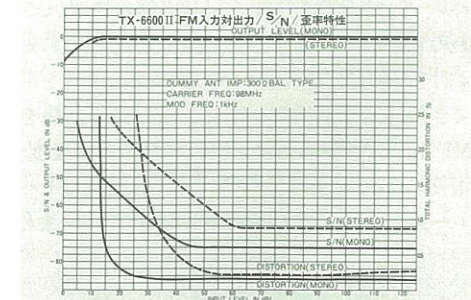
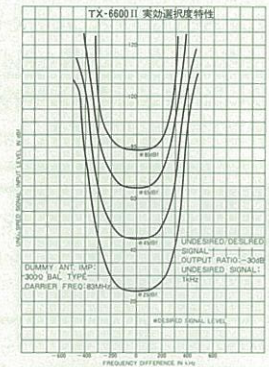
IF段にはパイオニア開発の専用高集積度IC。

選択素子には2素子セラミックフィルターを2個使い、妨害波や混信を抑えています。



IF段には、合計200素子分以上もの要素を1個にまとめた、パイオニア開発のIF専用高集積度ICを使用しています。また選択素子には、位相特性のすぐれた2素子セラミックフィルターを2個採用しています。これによって実効選択度特性は60dBと高く、相当に強烈な隣接波の妨害があっても、音質に影響を受けることはほとんどありません。しかもキャプチャーレシオは1.0dBのすばらしい値ですから、受信局

と同一周波数に不要電波があっても1dBのレベル差があれば、これを抑えて混信による音質の劣化をほとんど感じさせません。また、この回路では5段のリミッターがかけられ波形の整形が行なわれますから、AM抑圧比も50dBと高く、AM成分の雑音も大きく低減しています。こうした諸特性の高さによって音質は美しく磨きあげられ、ステレオ時のひずみ率は0.3%以下(1kHz)です。し、SN比も68dBの高さを確保しています。



IF段のセラミックフィルター間に、段間アンプを設け、同調特性を向上させた音質重視の設計。

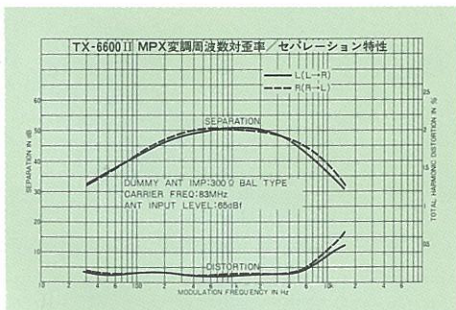
同調の最良点1点で、いかにひずみ率がすぐれていても、ちょっと同調がずれただけで急激にひずみが増加するのでは、あまり実用的とは言えません。TX-6600IIでは実用性を高めるため、IF段

のセラミックフィルター間にトランジスタ1石の段間アンプを設け、利得を上げて平坦な位相特性を確保しました。これによって同調特性を向上させ、多少の同調ずれがあってもひずみの増加やセパレーションの劣化を抑え、音質への影響を極少にしています。またこの回路によって、大入力時のひずみ特性を改善し感度も向上させています。

MPX部には、セパレーション特性を安定させ美しいステレオ放送を再現する、PLL回路の専用ICとローパスフィルターを採用。

FM放送の楽しさは、何と云っても美しい音質でステレオ音楽が受信できる点にあります。ですからステレオチューナーでは、このステレオのセパレーション特性を決定するMPX部の性能が重要になります。TX-6600IIではこのMPX部に、PLL回路の専用ICを使用しています。PLL回路は温度や湿度に影響されやすいMPX部のセパレーション特性を、高度に安定させるすぐれた方式です。これによってTX-6600IIのセパレーション特性は非常に安定し、美しいステレオ放送を再現します。

さらにローパスフィルターとして5素子構成の本格的ICフィルターを採用。これにより周波数特性を向上させ、サブキャリア比62dBを得ています。また、ひずみ感のないステレオ再生ができます。



効きの良いFMミューティング回路。スイッチ切換え時のノイズも低減するトランジスタ3石構成。

FM放送のチューニングでは、同調時や離調時の

ポップノイズ、そして局間でのノイズなど耳障りな雑音が多いものです。そのほか電源ON-OFF時やセクタースイッチ切換え時のクリック音も気になります。TX-6600IIでは、こうしたわずらわしい雑音をカットするため、トランジスタ3石構成のミューティング回路を内蔵しています。これによって雑音が低減され快適な操作が楽しめます。

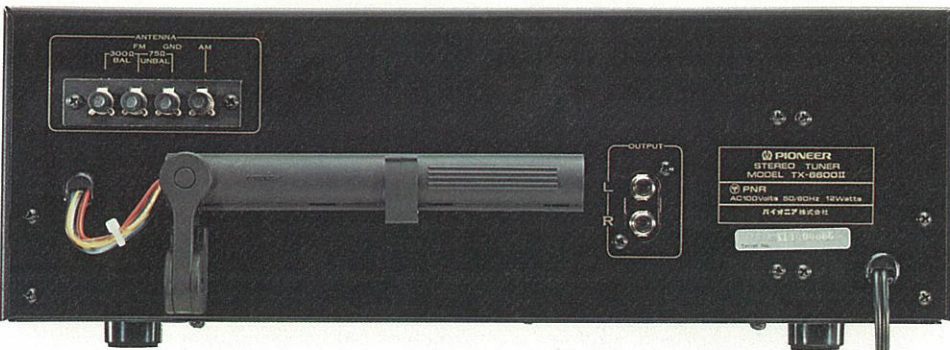
ダイヤルスケールは実効長200mmのロングスケール。チューニング機構には慣性能率の良い大型フライホイールが使われています。



精度の高いメタリックベースのダイヤルスケールは、実効長200mmのロングスケールですから、

正確度の高いチューニングが可能です。そしてチューニング機構はハイクラスなチューナーと同様に慣性能率の高い大型フライホイールを採用し、実にスムーズな指針の動きをつくり出しています。

AMセクションも高集積度ICによって、電波の強弱があっても美しい音質を保ちます。



AMセクションは、高集積度の専用ICが採用されています。このICは、入力の強弱があっても常にほぼ一定の働きをさせるAGC特性がすぐれていますから、強電界地域でも弱電界地域でもひずみ感の少ない、安定した美しい音質です。

ミューティング回路と組合された、使いやすいレバー式セクタースイッチ。

FM-AUTOとMONO及びAMの3点セクタースイッチは、ミューティング回路のON-OFFと組合された使いやすいレバー式スイッチです。

FM-AUTOにしておけば、ステレオ放送時は自動的にステレオ再生となり、同時にステレオインジケーターが点灯します。

FMチューニングの最良点を知らせるセンターチューニングメーターは、AM受信時のシグナルメーターを兼ねています。

メーターは、FM受信時には同調の最良点を知らせるセンターチューニングメーターとして働き、AM受信時には入力の強弱を表わす、シグナルメーターとして動作します。

## TX-6600IIの規格

【FM部】	
回路方式	FET RFI段、3連バリコン、5段リミッター、クオドラチュア検波PLL MPX
S/N50dB感度	モノ……………2.8μV、新IHF14.0dBf ステレオ……………44μV、新IHF38.0dBf
実用感度	モノ……………1.9μV、新IHF10.7dBf
S/N	モノ……………75dB ステレオ……………68dB
高調波歪率	モノ……………0.15%(100Hz)、0.15%(1kHz)、0.2%(10kHz) ステレオ……………0.3%(100Hz)、0.3%(1kHz)、0.6%(10kHz)
キャプチャレシオ	……………1.0dB
実効選択度	……………60dB(400kHz)
ステレオセパレーション	
1kHz	……………40dB
30Hz~15kHz	……………30dB
周波数特性	30Hz~10kHz $\pm 0.5$ dB 20Hz~15kHz $\pm 0.5$ dB
イメージ妨害比	……………60dB
IF妨害比	……………90dB
スプリアス妨害比	……………75dB
AM抑圧比	……………50dB
サブキャリア比	……………62dB
ミューティング動作レベル	……………1.7μV(10dBf)
アンテナ	……………300Ω平衡型、75Ω不平衡型
【AM部】	
回路方式	……………非同調RFI段、2連バリコン
実用感度	バーアンテナ……………300μV/m 外部アンテナ……………15μV
選択度	……………35dB
S/N	……………50dB
イメージ妨害比	……………40dB
IF妨害比	……………70dB
【出力部】	
レベル/出力インピーダンス	
FM(100%変調)	……………650mV/4.6kΩ
AM(30%変調)	……………150mV/5.4kΩ
【使用半導体】	
FET	……………1
IC	……………3
トランジスタ	……………8
ダイオード他	……………9
【電源部・その他】	
電源電圧	……………100V、50/60Hz
消費電力(電気用品取締法)	……………12W
外形寸法	……………380(W)×139(H)×322(D)mm
重量	……………5.6kg

### JA-T1 FM専用アンテナ……………¥4,000

FMの音質を大切に、中・強電界用FM専用アンテナです。位相差給電方式による優れた指向特性。小型で軽量の、取付場所を選ばない2素子アンテナです。●75Ω、300Ω共用。